

# 事業報告書 団体名:特定非営利活動法人ファンズアスリートクラブ

<b>事業名</b>	<b>キャップアートで ABC プロジェクト ～ボトルキャップで ABC プロジェクト内～</b>
<b>【計画時の事業目的(取組課題)と実施効果】</b>	
<p>ボトルキャップでアート作品を作り、障がい者や一般市民と多くふれあい、キャップアート作品を見てもらい、その後はワクチンに変え、世界の子ども達を病気から救うプロジェクト。</p> <p>★今年度は、川崎市内全域に拡大できるように活動していきます。 ★サポーターとして、ウインドサーフィン日本代表、ビーチサッカー日本代表などのアスリートや、J-POP の作曲家を迎えています。さらに拡大していきます。</p>	
<b>【事業計画】</b>	
<b>■令和3年</b>	
4月～(通年)	川崎市内各所でボトルキャップの回収開始 回収BOXの交渉や企業提携も通年で行う
6月～	事務局の設置(6月～10月末まで・ファンズスポーツクラブ川崎クラブハウス内) ボランティアスタッフと共にボトルキャップの洗浄・色分け ボトルキャップアート作品募集要項の決定
7月	川崎市立小学校支援級にアスリートと共に出席して作品制作(今年度は2～3校予定) ボトルキャップアート作品一般公募開始
8月	銀柳街にてアスリートと共に制作するイベント開催 カルッツ★パラスポ サマーフェスタ(8月14日開催予定)にてアスリートと共に制作するイベント開催
下旬	アート作品審査・賞品/賞状発送 カルッツかわさき プレイルームにて展示会(～9月中旬)
9月下旬	作品解体～ NPO法人 Re ライフスタイルに作品使用ボトルキャップや使用外ボトルキャップを持込 ポリオワクチンへ対価を寄付
<b>■令和4年</b>	
2月	JVCに全額を寄付 バヌアツ共和国・ミャンマー・ブータン・ラオスの子ども達に小児麻痺予防ワクチンとして接種
<b>【実施効果】</b>	
①	「アート活動」を通して交流できる子供たちを増やそう →一緒に制作する障害児目標100名
②	障害は「個性」。障がいのあるなしに関わらずアスリートと一緒にボトルキャップアート作品を作ろう →仲間意識を持ってもらう。普段のイベントや総合型地域スポーツクラブの参加者も増加 海外の子ども達を救おう →ポリオワクチン 目標600人分・4か国に各150回接種出来る

## 【実施結果】

- ・特別支援学級にアスリートと共に出向いてボトルキャップアート作品制作  
7月12日 旭町小学校特別支援級
- ・寺子屋にアスリートと共に出向いてボトルキャップアート作品制作  
7月3日 旭町小学校  
7月17日 宮前平小学校
- ・ボトルキャップアート作品公募開始  
7月20日～8月14日  
応募総数:38点/入選作品 16点
- ・8月13日 サポーターと共にボトルキャップアートを制作する動画を収録・配信  
※カルッツ★パラスポ サマーフェスタが中止になったため制作物の展示は8月14日「川崎区採火式」に変更
- ・カルッツかわさきにて入選作品展示  
展示期間 8月25日～9月15日
- ・11月23日 かわさき企業市民交流 Dayにてボトルキャップアートワークショップ開催(ルフロン6Fにて特設会場設置)  
参加者:のべ 48名
- ・1月 作品解体作業
- ・3月 JVCに寄贈  
バヌアツ共和国・ミャンマー・ブータン・ラオスの子ども達に小児麻痺予防ワクチンとして届けられる予定  
最終持込総重量 1336.7kg、総個数 546,680個、ポリオワクチン寄贈数 1,094人分

川崎区内だけでなく「FSC 宮前」も主導的に活動し、宮前区内でも活動が拡大しました。  
ボトルキャップ回収に関して、明治安田生命川崎支社と連携し、川崎市内全体に拡大しました。  
新たなサポーターとして漆塗り作家アーティストを迎え、芸術部分の視点を充実させました。  
NPO 法人キッズアートプロジェクトと連携し、障害者だけでなく小児科入院児童との連携や、多くの画家や音楽家との連携も始まりました。

## 【実際の効果と課題】

特別支援級への訪問が1回と寺子屋2回、商業施設でのワークショップが1回だったので35名程度しか障害児との制作が行えませんでした。コロナ禍でワークショップが中止になった事が大きな原因でした。  
一方で、寺子屋で障害児も受け入れて行き、障がいのあるなしに関わらず児童と一緒に制作を行う事で、目標は達成できたと思われまます。

2022年3月時点で作品解体前にも関わらず、ポリオワクチン1,094人分のボトルキャップが集まりました。

NPO 法人キッズアートプロジェクトとの連携が始まり、障害者だけでなく小児科病棟の入院児童ともキャップアート交流が令和4年度より本格的に始まる予定です。

### ■2021 ボトルキャップでアート!!を終えて

コロナ禍で一部企画変更を行いながらプロジェクトを実行しましたが、川崎区内だけでなく宮前区を中心に川崎市全域の小学校支援級との協働機会も多く増えただけでなく、川崎区内の障がい者施設などからの問い合わせや横浜市の支援学校からの問い合わせなど「障害者団体」と密接に行える環境が増加しました。

NPO 法人キッズアートプロジェクトとの連携も始まり、川崎市内の病院小児科との連携も新たに開始しました。

伝統工芸作家さんのプロジェクト加入により、アートを審査する目線についても広い知見を頂き、アスリートと子ども達、市民と触れ合う「新しい様式」もたくさん見つかりました。

「環境問題や海外の子供たちの現状」をアスリートが伝えるという新たな形が見つかった事、「音楽や伝統工芸とキャップアートの融合」など新しい視点が出来た事が大きな収穫です。

#### ■今後の展望

今回、周知の期間が短かったので「ボトルキャップなんてペットボトルと一緒に捨ててしまったよ」という意見も多数聞きました。分別して(キャップ・ボトル・包装フィルムの 3 分割)を伝えられる動きを熟考したいと思います。

「パラアート」という分野に関して、今回初の動きだったので、今回をきっかけにヒアリングなどを行い、次年度以降充実できるように取り組んでいきます。